



遠野物語のみち

5.8km

遠野市

JR釜石線遠野駅

はじめに

遠野物語は遠野出身佐々木喜善の話をもとに柳田国男がまとめたものであることは良く知られています。佐々木喜善は遠野郷土淵村山口の出身（土淵村の村長にもなった）ということもあり遠野物語の各節は「土淵村山口の某が・・・」という書き出しではじまるものが多くあります。本コースは遠野市土淵地区の遠野物語にゆかりのある所を周遊するコースで遠野物語の核心部分に触れることができます。（調査日 2002年3月30日）

交通アクセス

起点の足洗川へはJR遠野駅から早池峰バス遠野ふるさと村行または山口行に乗り足洗川で下車。終点の和野へはJR遠野駅から早池峰バス山口行に乗り和野で下車。

和野バス停 遠野バスセンター行時刻 722 日祝休
, 931, 1342, 1645

コース案内板の内容

遠野物語のみち

このコースは起点伝承園からカッパ淵、たかむろ水光園、デンデラ野、山口水車を経て終点和野に至る全長約5.8kmののどかな田園風景が広がる自然歩道です。

「遠野物語」の話者佐々木喜善の生家や1日も休まず水しぶきを上げて回りつづけている山口水車があります。デンデラ野は、昔60歳を越えた老人たちが生活した場所です。また、死に先立って死者の霊が通る場所ともされていました。デンデラ野の先にはたかむろ水光園があります。約3時間の散策路です。（起点）伝承園 0.5km カッパ淵 2.6km たかむろ水光園 1.5km デンデラ野 1.2km 和野（終点）

1. JR 遠野駅 起点・足洗川

JR盛岡駅から急行陸中に乗りし10:06遠野到着。起点の足洗川へ行く路線バスの接続も良いが遠野マップ 1に載っているいくつかの名所に立ち寄ろうと思い、徒歩で足洗川に向かう。街路樹のヤマボウシが並び遠野駅前の通りを約100m直進し信号のある交差点で左折。商店街の中を進む。遠野郵便局の斜め向かい側（だったと思う）（道路の北側）に「池端の石臼 遠野物語二七」と記された標柱が立っている。この場所は精米店の前で小生が訪れたとき精米店のトラックが出入りしていたので現在も営業中の店である。遠野物語二七に記されている池の端の家は現在も精米店として存在しているのには驚いた。

上早瀬橋を渡る。消防署の近くにさすらい地蔵がある。由緒書きには「力自慢の若者が地蔵を投げて遊んだあと投げたままにしておいても、いつの間にか地蔵は元の場所に戻っている。男好きの女神。投げて遊ぶ者にいたずらするなど注意すると、この神様は機嫌が悪くなる。」とある。なるほどこの地蔵は何度も投げられせいか欠けた跡が多くとても地蔵には見えない。

国道340号に沿って歩道を進んでいくと「キツネの関所」と記された道標がある。歩道から東に分岐する小径に入り20m程斜面を歩くと標石が立ってい



写真1 似田貝バス停



写真2 足洗川(起点)

る。キツネの関所の謂われは、遠野の町で遊んでからの帰り道、この場所で娘に「酒と風呂があるからあがって行って」と誘われる。翌朝、目覚めると泥田の中に寝ている。とのこと。

遠野市街地から続いていた国道沿いの歩道は五都市～足洗川の間途切れるので車道(国道)を歩くことになる。途中の似田貝バス停はミ二南部曲り屋風の建物で全国的にも珍しいと思う。似田貝の集落を抜けると起点の足洗川バス停に着く。この場所は信号機のある交差点で北西角に遠野物語二を記した案内板が立つ。近くに早池峰山古参道跡があるので早池峰山の女神を記した遠野物語二がふさわしいのであろう。尚、似田貝・足洗川は遠野物語六八に地名の由来が記されている。

2. 伝承園

足洗川交差点を直進するとすぐ左手に伝承園の建物と駐車場がある。駐車場に自然歩道の地図入り案内板がある。

正面入口で入園料(¥310)を支払い中に入る。渡されたパンフレットを見ながら施設を見て回った。中心に南部曲り屋、周囲に納屋・井戸・水車小屋などがあり一件の農家の敷地を再現している。また土産物屋・食堂もある。小生が訪れたのは団体一行が見学し終わったときだったようで園内は閑散としていた。

見どころは国の重要文化財に指定されている南部曲り屋である。中に入ると薄暗い土間となっていて、座敷の上り口にあるかまどから煙が立ち昇っている。この煙は演出のための人工的なものだろうと思ってかまどの蓋を開けてみると中で湯が沸騰していた。かまどの裏側に回ってみると火が赤々と燃えていた。

最初に入ったのは黄色の豆電球(ランプだったかも)が灯る居間で広さは四畳半くらい。座布団が敷かれていて、おそらくこの場所で昔話を聞かせるのであろう。部屋として灯りがあるのはこの居間だけで奥にある常居や寝室は暗い。曲り屋からオシラ(御蚕神)堂まで連絡廊下を通る。廊下に養蚕と遠野物語六九(長者の娘と愛馬の話)の展示がされている。両方ともオシラサマに関係がある。廊下の突き当たりがオシラ堂である。天井まで無数のオシラサマで埋め尽くされおり圧倒される。人物や馬の顔の木彫り(素材は桑の木)で、首からは下は箸のような単純な棒形状になっていると思われる。約30cm四方の布切れで首からは下は隠されている。布切れの色は赤と橙系が多い。ちょうどてるてる坊主の頭の部分が縦に細長い木彫りになっている感じである。小生はオシラサマを初めて見るが予想以上に素朴な木像であった。

次の見どころは佐々木喜善記念館である。佐々木喜善に関しては類似の展示が遠野市立博物館やおの昔話村などにもあるが、ここが一番展示内容が充実していたと思う。

園内を回って気付いた点であるが、園内に植えられている木は遠野物語に出てくる木であること。遠野物語五〇、五一、五二に出てくる閉古鳥、オット鳥、馬追鳥はそれぞれカッコウ、コノハヅク、アオバトのことであること。コンセイサマ(遠野物語一六)が祀られていたこと、である。

3. 常堅寺(遠野物語八八)

伝承園から県道を隔てた反対側に常堅寺に至る道がある。大きな案内板が立っているのでわかりやすい。畑の中を200m歩くと右手に樹木に覆われた神社の境内が見えてくる。山門の両側に木彫りの仁王像が立つ。848年、慈覚大師作である。カップバ狗にもお目にかかることができた。常堅寺が火事の時カップバが水で火を消したとのこと。常堅寺本殿の左側にカップバ淵がある。遠野の観光ポスターに必ず出てくる場所である。淵(小烏瀬川支流)を一周する遊歩道がある。小生が訪れた3月はまだ緑が少なく雪解け水で流れは速かったのでカップバが出てくる雰囲気は残念ながら感じられなかった。しかし、小生が長年あこがれていた場所に立つことができ感無量であった。



写真3 カッパ淵

4. 安倍屋敷（遠野物語六八）

カッパ淵を一周する遊歩道を歩いているとき遊歩道脇に安倍屋敷の案内板が立っているのを見つけた。安倍氏とは平安時代末期に衣川に本拠を置きこの地方を支配していた安倍貞任をはじめとする一族のことである。この場所に安倍氏の子孫が住んでいた。的場や堀の跡があるとのこと。遠野市内には貞任山・貞任高原といった地名もあり安倍氏と深いつながりがあったと考えられる。

5. 柏崎～高室

常堅寺を出た後、自然歩道の道標に従い歩き始める。常堅寺周辺の集落を抜け水田の外縁部のあぜ道を東に向かう。本コースの中で最も単調な区間である。東の山に近づくと柏崎集落の中に入り右折左折を繰り返す。この柏崎という地名は遠野物語に頻繁に現れるがごく普通の郊外の住宅地に見えた。路線バスが通る広い車道に出てからは急な登り坂となる。自転車は危険なので通行しないようにという注意書きがあった。おそらく、自転車で下ったとき猛スピードが出て何かの事故があったのだろう。車道を登り峠の近くになると左手に「たかむろ水光園」の広い敷地がある。入手したパンフレットによると温泉入浴と食事を主としたレクリエーション施設である。時間があれば立ち寄って一風呂浴びたいところである。

6. デンデラ野（蓮台野）（遠野物語一一一）

たかむろ水光園入口を過ぎると峠を越え下りの道となる。道幅は狭く集落も無く一気にさびしくなる。小沢に架かる橋を渡るとやや平坦になる。この小沢

沿いに水田が開けている。それから再び東側の斜面を登る。ピーク地点に「デンデラ野」と鉄板の道標が立っていた。ここで右に分岐する細道に入る。50m程斜面を登ると畑の一角にデンデラ野の石碑が立っていた。デンデラ野とは何のことかわからずとにかく行ってみようということで到達したのだが石碑の案内書きには「60歳になった老人を捨てた野」とある。これを読んでピンときた。デンデラ野とは蓮台野のことを言っているのである。遠野物語を活字で読んでいる限り気がつかない。ここからの展望は良く、麓に広がる水田を見渡せる。老人達は日中麓で農作業を手伝いながらこの場所で共同生活をしてきたとのこと。

車道に戻り山口集落に向かう。途中、山口川に架かる高室橋には老婆を背負って歩く男性のレリーフがはめ込まれていた。親をデンデラ野に連れて行くつらさを感じる。

7. 山口

デンデラ野から車道を進むと丁字路に突き当たる。道標には左が終点の和野、右が山口水車と記されている。遠野駅から歩きおしのためかなり疲れがあるがせっかくここまで来たので山口水車にも寄ることにした。

車道は上り坂で曲がりくねっている。しばらく進むと道沿いに佐々木喜善の生家があった。現在も人が住んでいるので古さは感じない。ただし付近の農家と比べても決して豪邸ではなかった。生家の東側に水田が広がりさらにその先の山の斜面にダンノハナ（遠野物語一一一、一一四）がある。現在ダンノハナは共同墓地になっている。小生は立ち寄りなかったがこのダンノハナの中に佐々木喜善の墓碑がある。



写真4 デンデラ野の碑



写真5 山口水車

墓碑の筆跡は佐々木喜善と交流のあった折口信夫との事。

山口水車に到着。勢い良く水車が回転している。近くにトイレ、駐車場、ベンチがあり一息つけるところである。

8. 終点・和野

山口水車から引き返し終点の和野に向かう。どんどん車道を下っていくと大槌街道に合流する。合流地点に山口バス停がありここが路線バスの終点であ

る。さらに下ると大槌街道と小国街道の分岐点に着く。ここに自然歩道の地図入り案内板がある。また石塔群が立っていて交通の要衝であったことがわかる。かつては駄賃付の馬の鈴の音が鳴り止まないほど交通量があったという。程なく終点和野バス停に着く。

近くに山崎のコンセイサマやマヨヒガ（遠野物語六三）伝説の琴畑川があるようだが次回に寄ることにしたい。バスの時刻に間があるので帰路も歩くことにした。和野～伝承園は国道340号を通り徒歩で所要30分。小鳥瀬川沿いの気持ちよいコースであった。

9. 参考文献

1. 遠野マップ 遠野市観光協会 市街地から郊外まで観光地を網羅。遠野観光の必需品。
2. 遠野物語 柳田国男（新潮文庫）
3. 遠野物語・付遠野物語拾遺 柳田国男（角川文庫）
4. 新釈遠野物語 井上ひさし（新潮文庫）
5. 伝承園パンフレット
6. たかむろ水光園パンフレット



図1 コース略図

(起点)伝承園 0.5km カップパ淵 2.6km たかむろ水光園 1.5km デンデラ野 1.2km 和野(終点)